

出題分析			
試験時間 90分	配点 80点(Writing 込)	大問数 3題	
分量 (昨年比較) [減少] 同程度 増加]		難易度変化 (昨年比較) [易化] 同程度 難化]	
<p>【概評】</p> <p>Reading は昨年度同様の長文読解問題 3 題で、3 題ともおおむね出題形式は統一されている。大問 I の設問数が 3 つから 2 つに減少したことを除けば、設問や選択肢の数に多少の増減はあるものの出題形式に昨年度から大きな変化はない。昨年度に続き大問 II の文章は受験生にとってやや難解で、大問 I と III は比較的読みやすい題材となっている。難易度に関しては、昨年度と比べ設問の分量がやや減少し、正誤を判断しやすい選択肢が増えていたため、やや易化したと言える。とはいえ、全体的に語彙レベルが高めであるうえ、試験時間が全体の分量に対して短めであるため、受験生の負担は大きい。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	長文読解 (個人主義と集団主義の違いを生むものは何か)	昨年は出題されていた内容不一致文選択問題がなくなり、(1) パラグラフの要旨選択 (2) 同義語選択の 2 問構成であった。英文は対照的な 2 つの思考パターンについての説明という、概要を把握しやすい内容であった。(1) (2) とも紛らわしい選択肢は見当たらず、本文を正確に読めていれば迷うことはない。	標準
II	長文読解 (クロード・ベルナールの『実験医学研究序説』より)	(1) 内容不一致文選択、(2) パラグラフの要旨選択、(3) 同義語選択が出題された。(1) の内容不一致文選択は、昨年度は 2 つ選ばせる形式であったが、4 つ選択する形式に戻った。英文中に専門用語や語彙レベルの高い単語が多用されており、内容を理解しながら読み進めるには負担が大きい。(3) に一部紛らわしい選択肢が見受けられた。	やや難

III	長文読解 (砂糖が普及した歴史とその代償)	出題形式は(1)パラグラフの要旨選択、(2)同義語選択、(3)内容不一致文選択と、昨年度と同様である。(2)の下線部の語彙レベルが高いが、落ち着いて文脈から判断すれば解答可能である。また(3)は昨年に比べ選択肢の分量が大幅に減少している。文章の論旨もわかりやすく、比較的取り組みやすい。	標準
-----	--------------------------	---	----

合格のための学習法

本学部の問題は、読解問題の英文量が多く、本文や選択肢の語彙レベルが高い傾向にあるため、英語を読むこと自体に抵抗がないことが最低条件である。日頃から長めの英文を読み、分量の多い英文を集中して読めるように訓練するとともに、文系・理系を問わず様々なテーマに触れて語彙力をつけておくことが必要である。また、例年パラグラフの要旨を問う問題が出題されるため、日々の学習の中でも要点を整理しながら英文を読むくせを付けることが望ましい。